

# 2017年労働政策研究会議報告

## ●総括テーマ

### 非正規社員の処遇をめぐる政策課題

雇用情勢は好転してきているが、依然として就業者に占める非正規社員の割合は増加したままである。非正規社員が増加してきた背景には、一方で、仕事の繁閑が大きくなるサービス経済化の進展やグローバル競争の激化があり、他方で、その中でコスト削減や経営の柔軟性を求める企業の行動がある。そのような中で、働く側には、限られた期間、限られた時間だけ働きたいというニーズがあるのも事実だが、本当は正規社員として働きたいが、種々の事情からやむを得ず非正規社員として働いている人も少なくないという事情がある。

そのような非正規社員の処遇をめぐるっては、少なくとも3つの論点が考えられる。第1は、正規社員との賃金格差に関する論点である。「同一労働同一賃金」が唱えられているが、長期的な人材育成を前提とした、それゆえ職務より能力に着目した正規社員の賃金と、短期的な雇用を前提とし職務に着目してきた非正規社員の賃金を、どう比較するのかという議論もある。しかし、非正規社員はもはや短期的な雇用ではなく、なっているにもかかわらず、依然として賃金格差が大きいという反論もある。あるいは、これを機に、賃金の決定基準を、曖昧なものになりがちな能力ではなく、職務や成果によるものに移行させるべきという議論もある。いずれにしてもこれらの議論は、非正規社員の処遇改善を通じての格差是正に関する議論である。

第2の論点は、非正規社員の正規社員への登用を進め、非正規社員であった人の処遇改善を図るという方

策についてである。労働契約法が規定する有期労働契約の期間5年での無期労働契約への移行は、その一例と言える。ただしこれに対しては、逆に制限期間前の雇止めを助長するという議論もある。また、正規社員に求められる働き方を、制限の多い非正規社員が忌避するので、正規社員化が進まないという指摘がある。これに対しては、限定正社員（勤務地、勤務時間、担当職務などのいずれかが限定された正社員）の導入が提案されてきている。これら正規社員への登用にかかわる議論も、非正規社員の処遇をめぐる論点の1つである。

そして第3は、非正規社員は女性が多いことから生まれる論点である。現行の税や社会保障などの法的制度は、女性の就業、特に既婚女性の就業には中立的ではない。そのことが、非正規社員の処遇の決定にどのような影響を与え、またどのような影響を受けるのだろうか。

今年の研究会議では、これらの論点も含め幅広く非正規社員の処遇をめぐる課題をとりあげ、労働政策、人的資源管理論、労働経済学、労働法学の視点から分析を加えた。

なお、本特別号は2017年労働政策研究会議準備委員会の責任編集によるもので、掲載論文及び要旨は後に報告者による修正を経たものである。

2017年労働政策研究会議準備委員会  
永野 仁（明治大学教授）

#### 2017年労働政策研究会議準備委員会

準備委員長	永野 仁	明治大学教授
準備委員	上西 充子	法政大学教授
準備委員	大沢真知子	日本女子大学教授
準備委員	中窪 裕也	一橋大学大学院教授
アドバイザー	仁田 道夫	日本労使関係研究協会会長

## 会議日程

開催日：2017年6月18日（日）

場 所：法政大学

主 催：日本労使関係研究協会（JIRRA）

後 援：独立行政法人労働政策研究・研修機構  
（JILPT）

### 【準備委員長挨拶】

永野 仁（明治大学）

総括テーマ「非正規社員の処遇をめぐる政策課題」

### 【パネルディスカッション】

「非正規社員の処遇をめぐる政策課題」

#### 〈司会〉

永野 仁（明治大学）

#### 〈パネリスト〉

大木正俊（姫路獨協大学）

「非正規雇用の雇用保障法理および処遇格差  
是正法理の正当化根拠をめぐる一考察」

永瀬伸子（お茶の水女子大学）

「非正規雇用と正規雇用の格差——女性・若年  
の人的資本拡充のための施策についての考察」

樋口美雄（慶應義塾大学）

「日本の労働市場の変質と非正規雇用の増加  
——同一労働同一賃金をめぐって」

前浦穂高（労働政策研究・研修機構）

「非正規雇用者の組織化と発言効果」

### 【自由論題セッション】

#### ●第1分科会（労働法と労使関係）

##### 〈座長〉

中窪裕也（一橋大学大学院）

##### 〈報告者〉

(1) 金 明中（ニッセイ基礎研究所）

「アメリカやヨーロッパにおけるクラウド  
ワーカーの現状や課題，そして日本へのイン  
プリケーション」

(2) 篠田 徹（早稲田大学）

「連合（日本労働組合総連合会）は何をして  
いるのか——比較労使関係研究の分析枠組み  
再考にむけて」

(3) 花見 忠（上智大学）

「IIRA 創立 50 年を振り返って」

#### ●第2分科会（組織とHRM）

##### 〈座長〉

上西充子（法政大学）

##### 〈報告者〉

(1) 高村 静（東京大学大学院）

「構成員のワーク・ライフ・バランスにつな  
がる管理職の行動特性」

(2) 石山恒貴（法政大学大学院）

「副業を含む社外活動とジョブ・クラフティ  
ングの関係性——本業に対する人材育成の効  
果の検討」

(3) 松永伸太郎（一橋大学大学院）

「フリーランサーが場を共有して働くことの意  
義——アニメーターの労働過程を事例として」

#### ●第3分科会（キャリアに関する研究）

##### 〈座長〉

大沢真知子（日本女子大学）

##### 〈報告者〉

(1) 吉田康太（法政大学大学院）

「IT 人材の長期戦力化に向けたキャリア開発  
——中高年 IT 人材 10 名のプロジェクト経  
験分析」

(2) 岸田泰則（法政大学大学院）

「日本の雇用の場における高齢者と若年者の  
代替性についての理論的検討」

(3) 藤本 真（労働政策研究・研修機構）

「「キャリア自律」はどんな企業で進められる  
のか——経営活動・人事管理と「キャリア自  
律」の関係」